

【報道関係各位】

節電に関する調査

- 節電により「ライフスタイルが変化した」7割。「家の中で過ごすことが増えた」
- 交通や施設の節電に対し「支障はあるが継続は止むを得ない」約6割。
- 家庭では、「照明をこまめに消す」「エアコンの温度調整」「コンセントを抜く」
- 夏の電力不足を乗り切るために「備えをする」人は、4割超。

2011年4月15日
株式会社マクロミル

インターネット調査会社の株式会社マクロミル（本社：東京都港区、代表：杉本哲哉）は、群馬県、栃木県、茨城県、埼玉県、東京都、千葉県、神奈川県、山梨県の20才以上の男女に、「節電に関する調査」を実施いたしました。

調査手法はインターネットリサーチ。調査期間2011年4月7日（木）～4月8日（金）。有効回答数は500名から得られました。

【調査結果概要】

【1】東電エリア居住者、節電により「ライフスタイルが変化した」7割。

東京電力の供給エリアに居住する人に、震災後の電力不足による節電を受けて、ライフスタイルに変化があったかを尋ねたところ、71%が「変化があった」と回答しました。どのような変化があったかという問いには、「家の中で過ごすことが増えた」48%、「家族と同じ部屋で過ごすようになった」32%、「徒歩や自転車での行動をするようになった」30%、「早寝早起きになった」25%、「帰宅時間が早くなった」17%という回答が挙がっています。外出を控えている人からは、電車本数の削減や夜間照明の消灯などの物理的理由に加え「遠出をするのが不安」「外出を楽しむ気分ではない」といった声もあがっています。また、節電に協力するために計画的に行動をしている人も多いようです。（P2）

【2】交通機関や公共施設・商業施設での節電に対し、「生活に支障はあるが、節電の継続は止むを得ない」約6割。

4月上旬時点の交通機関や公共施設・商業施設で行われている節電について、どのように考えているか尋ねました。「生活に支障はほぼない」という回答が27%、「生活に支障はあるが、節電の継続は止むを得ない」が57%、「生活に支障があるので、節電を緩和してほしい」が16%となりました。約6割の人は生活に支障を感じながらも、節電に協力していきたいと考えているようです。（P7）

【3】家庭での節電、「照明をこまめに消す」「エアコンの温度調整」「コンセントを抜く」

現在、家庭で節電をしているか尋ねたところ、現在、節電をしている人は9割を超えました。節電方法は「照明をこまめに消す」90%、「エアコンの設定温度を控えめにする・利用しない」72%、「使わない電化製品のコンセントを抜く」65%が上位となっています。（P4）

節電したいが効率的な節電方法がわからない電化製品があるか尋ねると、3割が「ある」と回答し、具体的に挙げられた電化製品は「電子レンジ・オーブンレンジ」「冷蔵庫」「洗濯機」がトップ3でした。（P5）

【4】夏の電力不足を乗り切るために、「備えをする」人は、4割超。

今夏の電力不足を乗り切るために備えをしているかを尋ねたところ、「今から備えをしている」が14%、「今後、備えをする予定」が29%となっており、合計で4割超の人が備えをすると回答しています。「省エネ家電、暑さ対策商品の購入」ほか、「庭に緑を植える」「体力をつけておく」など様々な意見が寄せられました。（P8）

「節電に関する調査」

【調査結果詳細】

■ 調査概要

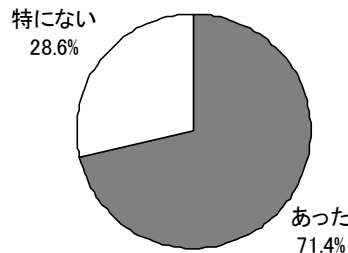
調査方法:	インターネットリサーチ							
調査地域:	群馬県、栃木県、茨城県、埼玉県、東京都、千葉県、神奈川県、山梨県							
調査対象:	20才以上の男女（マクロミルモニタ会員）							
有効回答数:		20代	30代	40代	50代	60才以上	小計	合計
	男性	50s	50s	50s	50s	50s	250s	
	女性	50s	50s	50s	50s	50s	250s	
調査日時:	2011年4月7日（木）～4月8日（金）							
調査機関:	株式会社マクロミル							

I. 震災後の電力不足による節電を受けてのライフスタイルの変化について

■ 節電によって、7割の人が「ライフスタイルに変化があった」と回答

東京電力の供給エリアに居住する人に、震災後の電力不足による節電を受けて、ライフスタイルに変化があったかどうか尋ねたところ、「あった」と回答した人は71%となりました。（図1）

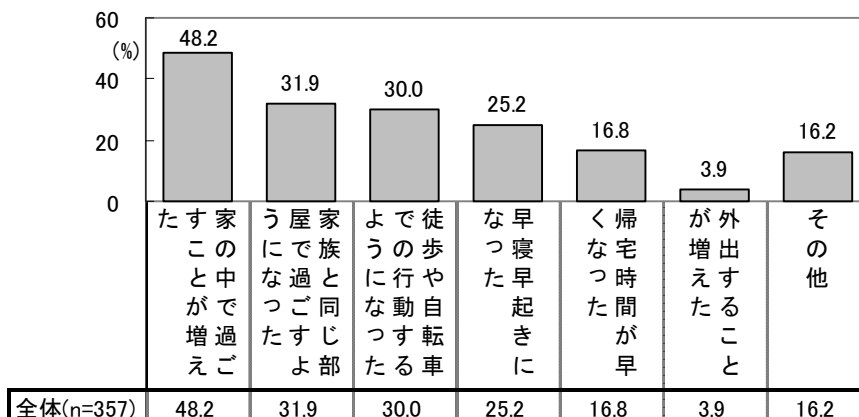
【図1】震災後の電力不足によるライフスタイルの変化(n=500)
Q.震災後の電力不足による節電をうけて、あなたのライフスタイルに変化はありましたか？



■ ライフスタイルの変化、「家の中で過ごすことが増えた」約5割

ライフスタイルに変化があったと回答した人に、どのような変化があったのか尋ねたところ、「家の中で過ごすことが増えた」48%、「家族と同じ部屋で過ごすようになった」32%、「徒歩や自転車での行動をするようになった」30%となっています。（図2）

【図2】どのようにライフスタイルが変化したか
(n=357/ベース:節電によってライフスタイルが変化した人)
Q.節電により、あなたのライフスタイルはどう変化しましたか？（複数回答）



■ 電力不足後のライフスタイルの変化について

震災後の電力不足によるライフスタイルの変化について自由に記載してもらいました。一部抜粋してご紹介します。(図3)

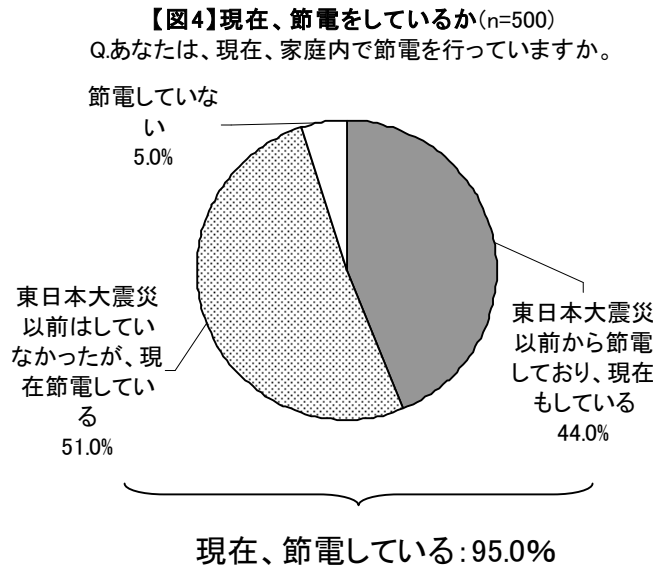
【図3】節電を受けてのライフスタイルの変化について(自由回答/一部抜粋)
Q.震災後の電力不足に伴う節電によるライフスタイルの変化についてご自由にお書きください。

コメント	性別	年齢(才)	都道府県
電車の本数が少なくなったので、早い電車に乗るため、早寝早起きをしている。電気のつけっぱなしも心を入れ替えてやめるようにした。	男性	31	千葉県
普段は夜遅くまで出歩く事や友人との外食が多いのですが、震災の節電により、店が早く閉まる事や、街が暗い事から早めの帰宅を心掛けるようになりました。	女性	21	東京都
計画停電時間を調べ、計画停電が行われる日はその時間帯にかぶらないように買い物や家事を済ませる必要がある。断水の心配があるときもあったので、自宅で水を沸騰させ保存水にするなどの処置をとった。家自体も暗く、節電を心がけている。	女性	25	埼玉県
自宅が停電するため、夜間の停電中はなるべく道を歩きたくないので早め帰宅するようになった。また、電力を使わないようにするため家族で同じ部屋で過ごすようになった。	女性	28	埼玉県
計画停電に合わせてリズムと、電力の消費の高い時間以外に家事をする事を心がけていること。	女性	35	千葉県
電車の本数が少なくなったり、万が一の時を考え小さな子どもを連れての電車での移動を控えるようになった。ベビースイミングなどの習い事もフィットネスクラブの自粛営業でお休みになったりしたため、お出かけは徒歩で行ける範囲の大型スーパーくらいと行動範囲が狭くなった。	女性	40	東京都
節電意識が高まった。なるべく電気を使わない生活を考えた。信号機も消える為、外出を控えるようにした。夜の停電の時は都心で外食をするようになった。	女性	40	東京都
遠出をするのが不安。電車も急行があまり走っていないので、都内に出たりするのが面倒になった。	女性	41	神奈川県
計画停電の時間により早めに食事の用意をすることになった。それにより気分的に「焦らせられている」気が多くなり疲れた。	女性	42	埼玉県
住んでいる地域は計画停電はなかったが、電車などが止まると大変なので徒歩で行けるところにしか行かないようにしていた。	女性	55	東京都
買い物も以前より計画して行ったり、ウィンドショッピングの気持ちになれなくて、家にいる時間が増えたと思う。	女性	61	埼玉県
少しでも節電したいと思うようになり、部屋の電気をLEDに買い替えたり、料理も工夫するようになった。いままで、少し無駄に使っていたなと思った。	女性	62	東京都
最初のうちは電力不足で出先で電車が動かなくなったり停電で移動に支障をきたすことがあったら困るので家の中で過ごしたり2、3時間の徒歩で家まで帰れるところにしか行かなくなった。	女性	62	東京都
計画停電のため仕事がなくなったりした。が、実際には除外地区のため行われぬのが分かり、戻った。お店が早く終わったり、電車の予定が変わった。(時刻表どおりでない)時間に余裕をもって行動するようになった。	女性	46	神奈川県
余分な電気を使わないように心がけるようになった。電車のタイヤが少なく、会社へ早めに行き早めに帰るようになった。	女性	39	東京都
普段から利用している様々な店舗が営業時間を短縮しているため。	女性	25	神奈川県
計画停電によりできるだけ電気に頼らないようになった。電気ポットを魔法瓶のポットに変えたり、トイレの暖房便座のスイッチを切って張替え式の便座シートに変えたりしている。特に、ラジオを聴くようになった。	男性	45	栃木県
電車、バスに頼らなくて良い部分はできるだけ利用しないようにしようと思った。少し自分の中で考えが変わった。	男性	39	東京都
被災地の生活を見てたら、いかに自分の生活が贅沢になってるか、考えさせられた。	男性	43	東京都

II. 節電について

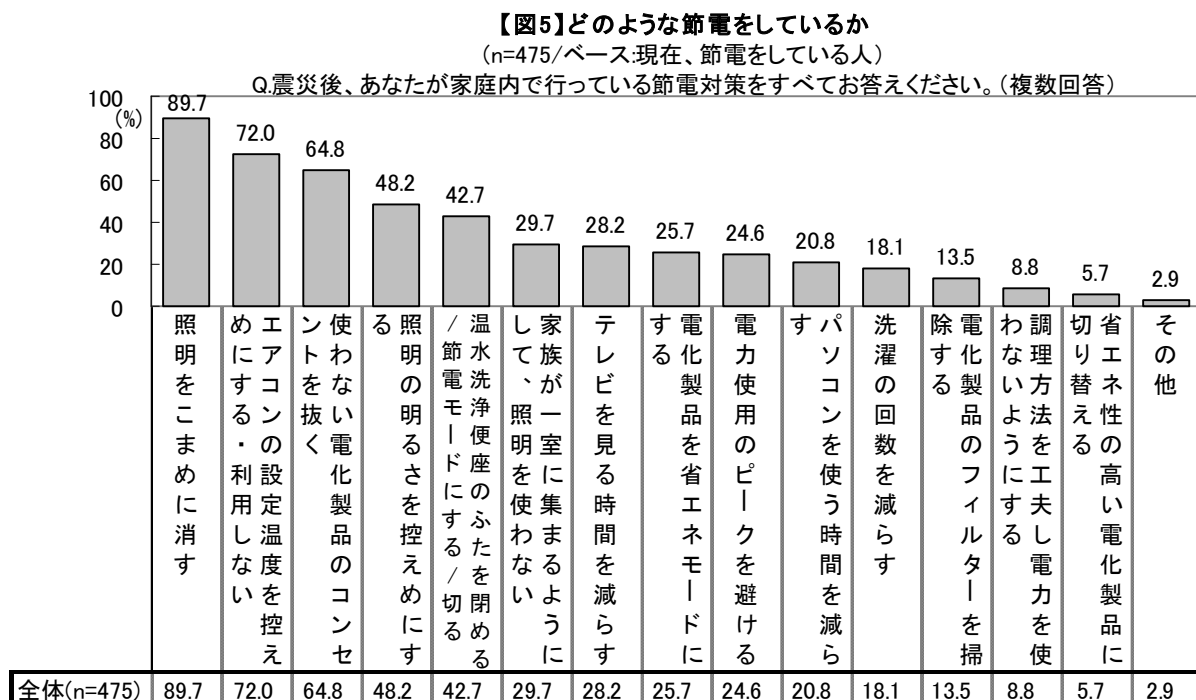
■ 現在節電をしている人は、95%

現在、家庭で節電をしているか尋ねたところ、「震災以前から節電しており、現在もしている」と回答した人は44%、「震災以前はしていなかったが、現在節電している」と回答した人は51%となっており、現在節電している人は、合わせて95%となりました。(図4)



■ 節電対策は「照明をこまめに消す」「エアコンの設定温度を控えめにする・利用しない」

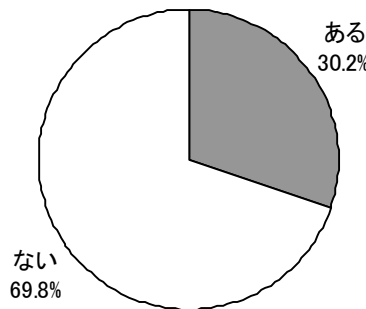
現在家庭で節電していると回答した人に、どのような対策を行っているか尋ねたところ、「照明をこまめに消す」が最も多く90%、次いで「エアコンの設定温度を控えめにする・利用しない」が72%、「使わない電化製品のコンセントを抜く」が65%となっています。(図5)



■ 節電したいが効率的な節電方法がわからない電化製品が「ある」と回答した人は30%

節電したいが効率的な節電方法がわからない電化製品があるか尋ねたところ、「ある」と回答した人は30%となりました。(図6)

【図6】効果的な節電方法がわからない電化製品の有無(n=500)
Q.節電したいが効果的な節電方法がわからない電化製品はありますか。



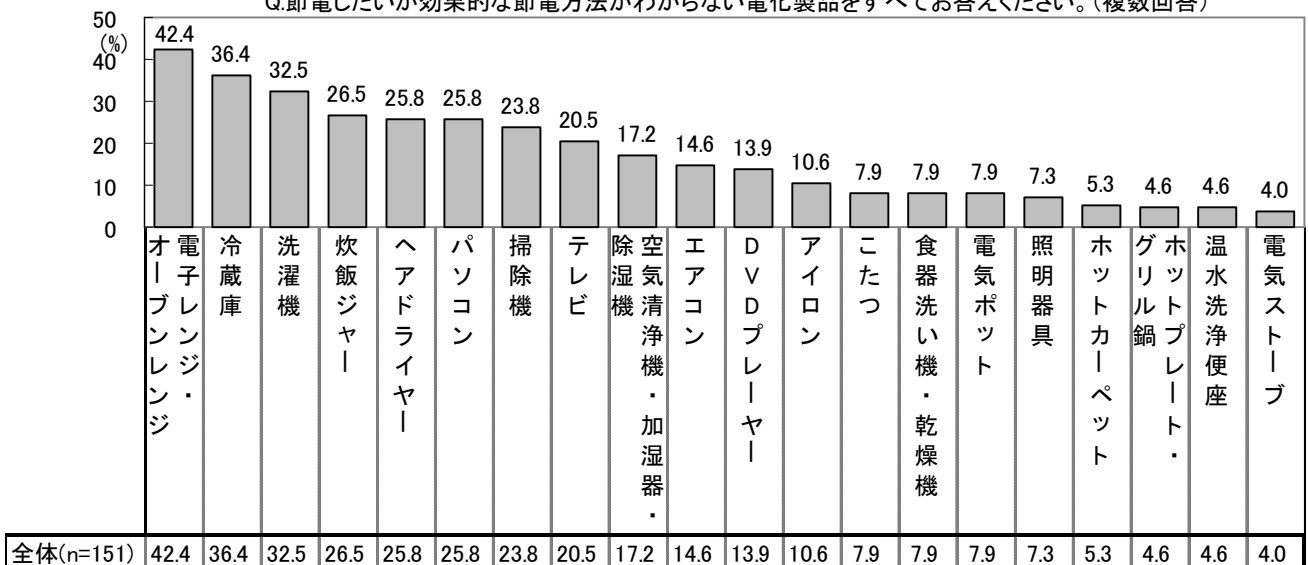
■ 効果的な節電方法がわからない家電「電子レンジ・オーブンレンジ」「冷蔵庫」「洗濯機」

効果的な節電方法がわからない電化製品を具体的に尋ねると、「電子レンジ・オーブンレンジ」42%、「冷蔵庫」36%、「洗濯機」33%が上位となりました。(図7)

【図7】効果的な節電方法がわからない電化製品<上位20抜粋>

(n=151/ベース:効果的な節電方法がわからない電化製品がある人)

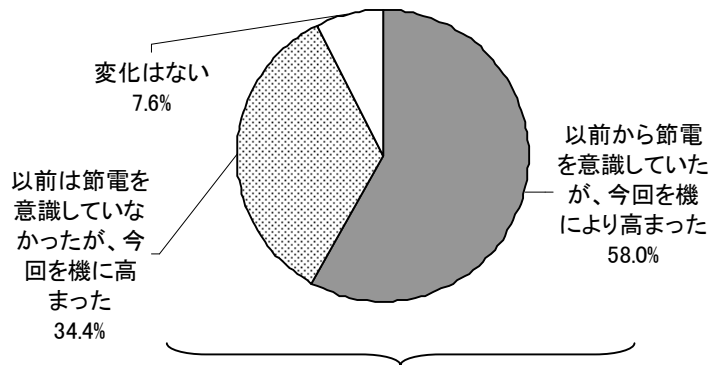
Q.節電したいが効果的な節電方法がわからない電化製品をすべてお答えください。(複数回答)



■ 今回の電力不足を通じて‘節電意識が高まった’人は92%

今回の電力不足を通じて、節電に対する意識に変化があったかを尋ねたところ、「以前から節電を意識していたが、今回を機により高まった」と回答した人は58%、「以前は節電を意識していなかったが、今回を機に高まった」と回答した人は34%、合わせて今回の電力不足を通じて節電意識が高まった人は92%となりました。(図8)

【図8】節電に対する意識の変化(n=500)
 Q.今回の電力不足を通じて、あなたの節電に対する意識に変化はありましたか。



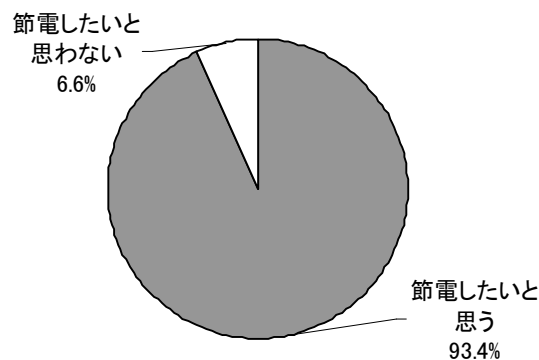
電力不足により、節電意識が高まった:92.4%

■ 電力不足が解消されても、「節電したいと思う」9割超

電力不足が解消された後においても節電したいか尋ねたところ、「節電したいと思う」と回答した人は93%となりました。(図9)

その理由を自由回答で尋ねたところ、「省エネ」や「環境」、「節約」を考えて節電を続行しようとする人が多いようでした。

【図9】電力不足解消後の節電について(n=500)
 Q.あなたは、電力不足が解消された後においても、節電したいと思いますか。

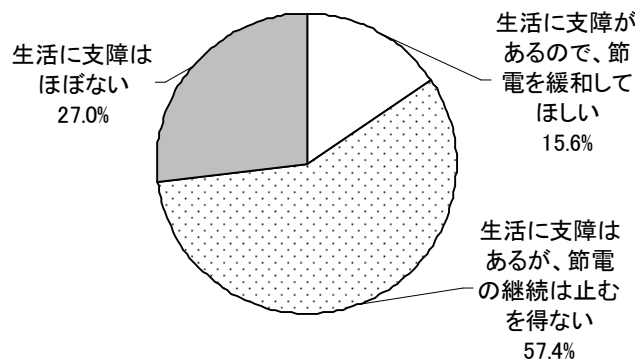


■ 交通機関や公共施設・商業施設での節電は
「生活に支障はあるが、節電の継続は止むを得ない」約6割

4月上旬時点の交通機関や公共施設・商業施設で行われている節電について、どのように考えているか尋ねました。「生活に支障はほぼない」という回答が27%、「生活に支障はあるが、節電の継続は止むを得ない」が57%、「生活に支障があるので、節電を緩和してほしい」が16%となりました。約6割の人は生活に支障を感じながらも、節電に協力していきたいと考えているようです。(図10)

【図10】交通機関や公共施設・商業施設において
行われている節電について(n=500)

Q現在、交通機関や公共施設・商業施設において
行われている節電について、
あなたはどのようにお考えになっていますか。
お気持ちに最も近いものをお知らせください。



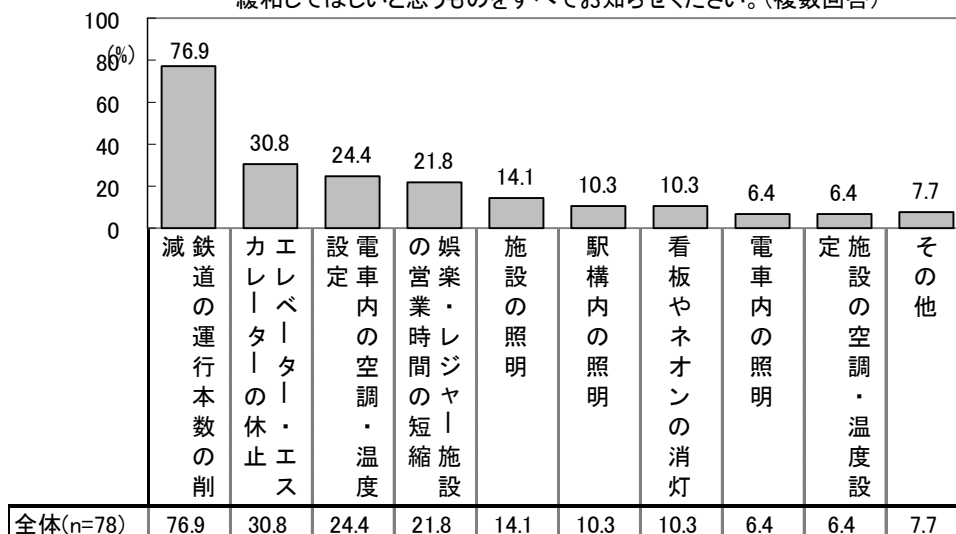
■ 緩和してほしいのは、「鉄道の運行本数の削減」77%

現在、交通機関や公共施設・商業施設において行われている節電について、緩和してほしいと思うものを尋ねたところ、「鉄道の運行本数の削減」が77%で最多、次いで「エレベーター・エスカレーターの休止」31%となっています。(図11)

【図11】節電を緩和してほしいと思うもの

(n=78/ベース:節電を緩和してほしいと思っている人)

Q現在行われている交通機関や公共施設、商業施設における節電で
緩和してほしいと思うものをすべてお知らせください。(複数回答)

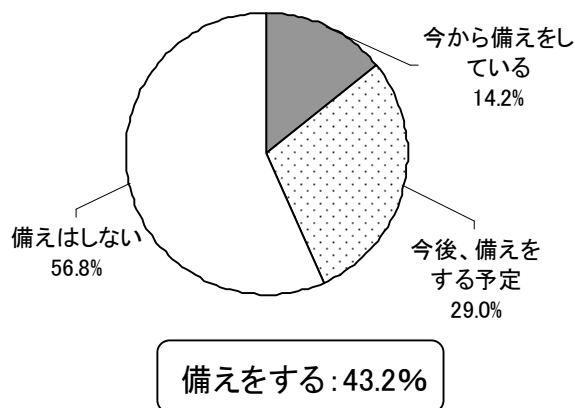


■ 夏の電力不足を乗り切るために、
「今から備えをしている」14%、「今後、備えをする予定」29%

今年の夏の電力不足を乗り切るために、今から備えをしているか尋ねたところ、「今から備えをしている」と回答した人は14%、「今後、備えをする予定」と回答した人は29%となっており、合計で4割超の人が備えをすると回答しています。(図12)‘

夏の電力不足を乗り切る準備として「照明器具をLED化する」「グリーンカーテンを作る」「充電式扇風機を購入」など様々なアイデアが寄せられました。(図12-1)

【図12】今年の夏の電力不足を
乗り切るための準備について(n=500)
Q.今年の夏の電力不足を乗り切るために、今から備えを
しますか？また、その内容を具体的に記入ください。



【図12-1】今年の夏の電力不足を乗り切るための準備について(自由回答/一部抜粋)
Q.今から、どのような備えをしていますか？また今後どのような備えをする予定ですか？

	性別	年齢(才)	都道府県
電池式LED懐中電灯購入(電池は充電式)	男性	35	東京都
扇風機を用意した。どれだけ使うかは分からないが、団扇・扇子も用意してある。	男性	37	千葉県
暑さに耐えられるよう体力をつける。	男性	46	茨城県
照明器具のLED化と照明の間引き。契約電力の低減。発電機器の購入。	男性	51	茨城県
停電も覚悟して、ソーラーライトでろうそく代わりにする。	男性	73	神奈川県
早寝早起き、使わない電灯を消すなどの習慣をつけようとしている。	女性	22	千葉県
充電式扇風機を予約しました。	女性	35	栃木県
ペットボトル氷を作っている。	女性	38	埼玉県
アイスノンを人数分購入したり、大きめのクーラーBOXを購入。	女性	45	埼玉県
省エネタイプの電化製品を購入する。節電モードに切り替える。	女性	51	埼玉県
玄関の照明をセンサータイプにした。	女性	51	埼玉県
寝苦しい夜に使う凍らせる枕を準備する。	女性	61	埼玉県
懐中電灯や保冷材を用意している。	女性	61	千葉県
部屋の温度上昇を和らげる為に窓ガラスにフィルムを貼って冷房設定温度を変える	男性	44	埼玉県
停電用のランタンと乾電池	男性	45	東京都
ろうそくの用意。網戸の修理。	男性	56	埼玉県
すだれ兼用のネットの設置。朝顔・ゴーヤの種を植えてグリーンカーテンにする。	男性	65	神奈川県
エアコン、テレビなど省エネ対応の電化製品に買い替えた。	女性	37	東京都

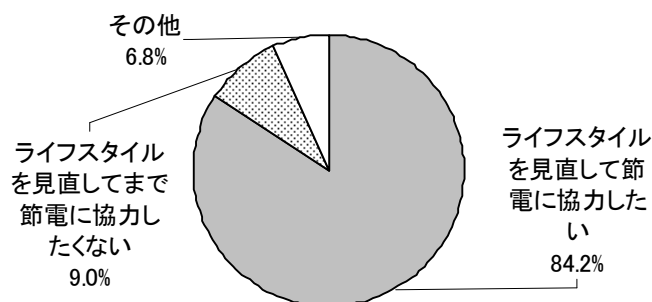
■ 夏に向けて「ライフスタイルを見直して節電に協力したい」84%

夏に向けてライフスタイルを見直して節電に協力したいか尋ねたところ、「協力したい」と回答した人は84%となりました。(図13)

【図13】ライフスタイルを見直して節電すること(n=500)

Q.経済産業省から、「計画停電」について、4月で原則的に打ち切り、電力需給が逼迫するタイミングのみで地域ごとの停電を行う方針と発表されました。気温が上がる夏場には再び電力需要が逼迫することが予想されており、計画停電なしに夏場を乗り切るにはより一層の節電が必要となりそうです。

あなたは、朝型の生活をする、家族が集まって生活するなどライフスタイルを見直して節電に協力したいと思いますか。



■ 夏の節電アイデアは、「早寝早起」「家族が一緒に過ごす」など様々。

夏の節電への協力について、どのようにライフスタイルを見直したいか尋ねました。自由回答を一部抜粋してご紹介します。(図 14)

【図14】ライフスタイルを見直して節電に協力したい理由、どんなライフスタイルにするか(自由回答/一部抜粋)
ライフスタイルを見直して節電に協力したいと思った理由、どのようにライフスタイルを変えるかなど具体的にご記入ください。

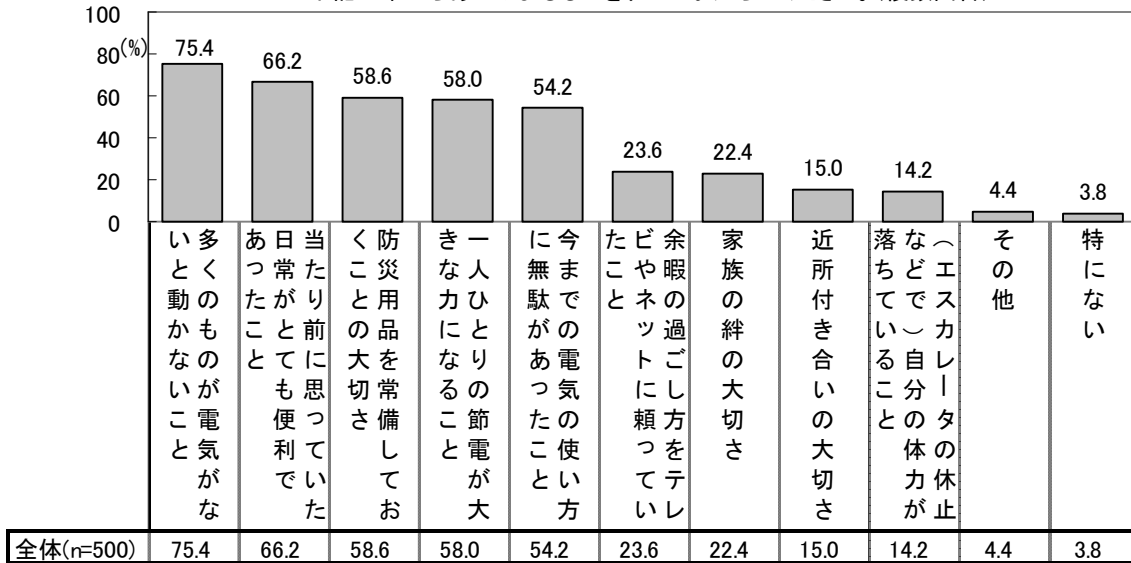
コメント	性別	年齢(才)	都道府県
電気を常時使うことは避ける。パソコンも家ではあまり使わないようにする。夜充電して昼使うということも意識する。	男性	28	千葉県
早起きして朝の涼しい時間帯にできるだけ仕事をすませる。冷房を付ける際は温度を高めに設定することや、家族でできるだけ同じ部屋で過ごす。LED電球など、省エネタイプの照明へ交換するなど。	男性	30	群馬県
大規模停電になると困るので、個人で出来ることは出来る限りやりたい。なるべく冷房を使わない、あるいは設定温度を下げる、電力使用のピーク時を避ける等。	男性	41	神奈川県
エアコンを使わない。サマータイムや、夏休み長期化と分散化などの社会的取り組みが行われるなら協力したい	男性	42	神奈川県
夜更かしをしない。お風呂の間隔をあげずに家族全員が入る。	男性	51	神奈川県
原子力発電所が復旧してもしなくても、日本の電力に関する見方が変わり、今後どのようになっていくかわからないので、節電になれた生活を身につけておこうと思う。今は夜型なので、朝型に変える。	女性	23	神奈川県
夜に起きていることが多々あるので、なるべく電気を使う夜は寝るようにする。ゲームが好きでよくやるのですが、それも控えるようにして、本読んだり散歩に行ったり、電気を使わない生活を心がけます。	女性	25	神奈川県
一人一人の意識が大切で、小さな事も積み重ねれば大きな事になると思います。電気の需要量が増える時間帯は避けて家事をして行こうと考えています。	女性	33	東京都
今回の災害を通して、電力に頼りすぎている生活を改善することで、将来のエコにつなげたいと思った。夏の暑さもエアコンに頼るだけでなく部屋の風通しを良くしたり、ベランダに緑のカーテンを栽培して屋内の熱さの緩和になるような人工的でない快適な過ごし方の工夫をしたいと思う。	女性	40	東京都
普段から、無駄なことが多いと思っている。夏は早起きして、涼しいうちに家事を終える。よしずを使ったり、エアコンを使わずに、涼しくなるよう工夫する等、できることを考えたい。	女性	49	千葉県
2階の窓をリフォームして風の通り道を作る。現在の家は、エアコン使用を前提にしているので、夏場は2階が蒸し風呂状態になる。今年は思い切ってリフォームしたい。また1階には西日の直撃を受ける窓があるので、これからグリーンカーテンを育てたい。	女性	59	千葉県
今の日本の生活は電気に頼り過ぎだと思ってる。たとえばトイレの便座を温める必要はあるのか？家庭ならカバーで十分だと思っている。駅だってバリアフリー対策としてエレベーターだけ設置すればよいと思う。地球上の資源を使い電気を作っているのだから使い過ぎていけばいつかは賄えない時が来ると思う。私は10年20年前の生活だってそんなに不便を感じていなかったような気がするのでそのころの生活に戻してみたいと思う。	女性	62	東京都

■ 「多くのものが電気なしでは動かないこと」75%
 「当りに前に思っていた日常がとても便利であったこと」66%を再認識

今回の電力不足を経験して痛感したことを尋ねたところ、「多くのものが電気がないと動かないこと」が75%で最も多く、次いで「当りに前に思っていた日常がとても便利であったこと」が66%となっています。多くの人が今回の電力不足を通じて‘電気の大切さ’を再認識したようです。(図15)

【図15】今回の電力不足を通じて痛感したこと(n=500)

Q 今回の電力不足を経験して、(改めて)痛感したことはありますか。
 下記の中からあてはまるものをすべてお知らせください。(複数回答)



■ 今回の電力不足で「電気、節電の大切さ」「日頃の無駄な電気の消費」を気付かされた

今回の電力不足で気付かされたことを自由に回答してもらいました。「電気がないと何もできない、情報も得られない」「日頃、無駄に電力を消費していたこと」「一人一人の節電の大切さ」など様々な意見が挙がりました。(図 16)

【図16】今回の電力不足で気付かされたこと(自由回答/一部抜粋)

今回の電力不足によって「気付かされたこと」はありますか。どのようなことでも結構です。ご自由にご記入ください。

	性別	年齢(才)	都道府県
備えあれば憂いなし。ラジオや懐中電灯など、何かと電池を使ったのだが、家に備蓄があったので慌てずに済んだ。	男性	22	茨城県
気にせず使っていた電気は有限な物であると、改めて気付かされました。「他の誰かが節電するから、自分は節電しない」という考えではなく、「本当に必要としている人が使えるように、自分達が節電する」という考えを、一人一人が胸に刻んで生活して欲しい。	男性	29	東京都
携帯する電源(バッテリーや乾電池等)が無いと、テレビやラジオの情報が一切得られないということに気が付きました。	男性	49	神奈川県
無駄な信号機が多すぎる。停電してもみんな注意して運転している。信号が無いことでスムーズな流れになったところがある。	男性	51	神奈川県
自分の生活にはパソコンが必須なので、それが使えないことには研究も趣味も情報を得ることも難しいので、どれだけ自分がパソコンに依存しているか気付かされた。	女性	23	神奈川県
自分にとっての娯楽は殆どが「電気を使うもの」「電気で動くもの」でした。これらの使用をいつもの半分にするだけでも、きっと節電になるんだろうと思いました。もっと電気を使わない娯楽にも目を向けたらいいのかも、と改めて思いました。	女性	25	神奈川県
情報が無い恐怖。情報を入力するためには電気が必要であり、その電気がない状態でも情報を得ることができる手段を構築しておかなければならないと感じた。	女性	26	茨城県
電気に頼っている時代だなと感じています。駅などでも節電の為に照明を落として暗い(特に地下道など)場所がありますが、海外の地下道や地下鉄のホームを思えば今迄が明る過ぎた感があります。それが日本は安全だと言われていた所以かもしれませんが、今回の節電において電気代がいつもの半分でした。やれば出来るのだからこれからも意識して無駄を省いていこうと思います。	女性	33	東京都
普段、電気を使いすぎている生活をしていること。都内でも、夜空の星が見えるくらいに電気を落とすのも悪くない。逆に、東京でも星が良く見えるようになって欲しい。	女性	35	東京都
夜の計画停電時、家族と久しぶりにUNOで時間を過ごした。会話が少ない家では無いが、年中TVをつけているとそれだけで終わってしまうことが多かったので、非常時ではあるが、有意義な時間でした。	女性	45	埼玉県
日本は資源を持たない国であること。福島の問題は、自分たちの問題であること。	女性	49	千葉県

【 株式会社マクロミル 会社概要 】

株式会社マクロミルは、さまざまな企業の商品やサービス等に対する消費者の声を、インターネットを活用して瞬時に集めるインターネット市場調査会社です。

国内約 100 万人のマクロミルモニタを調査対象として迅速なネットリサーチを行う「QuickMill」のほか、携帯電話を活用したモバイルリサーチ「MobileMill」、世界各国の消費者を対象にした海外市場調査「GlobalMill」など様々なネットリサーチサービスを展開しています。

社名 ■株式会社マクロミル
 本社 ■東京都港区港南 2-16-1 品川イーストワンタワー11F 〒108-0075
 URL ■www.macromill.com
 設立 ■2000年1月31日
 資本金 ■15億9,785万円 ※2010年6月末現在
 上場取引所 ■東証一部（証券コード：3730）
 代表者 ■代表取締役会長兼社長 杉本哲哉
 従業員数 ■528名 ※2011年3月末現在
 事業内容 ■インターネットを活用した市場調査（ネットリサーチ）

本件に関するお問い合わせ先

株式会社マクロミル 広報担当：大野
 東京都港区港南 2-16-1 品川イーストワンタワー11F 〒108-0075
 TEL:03-6716-0707 FAX:03-6716-0701 E-mail:press@macromill.com

《 引用・転載時のクレジット表記のお願い 》

本リリースの引用・転載の際は、必ずクレジットを明記していただきますようお願い申し上げます。調査結果のグラフ・表をご利用の場合は、データ部分に当社クレジットの掲載をお願い致します。

＜例＞「インターネット調査会社のマクロミルが実施した調査結果によると・・・」

